# 第５回福知山市行政改革推進委員会　議事概要

日時：令和５年２月２７日（月）
午前１０時１５分から
場所：市民交流プラザ　会議室４－１

■ 出席者

【委員(敬称略)】

深尾 昌峰(委員長)、菊田 学美(副委員長)、井上 拓、浦尾 たか子、細見 祐介、村尾 愼哉

【市】

市長公室長、経営戦略課長、財政課 課長補佐、事務局

## １　報告事項

### （１）令和５年度福知山市予算案の概要について

**【資料1について財政課より説明】**

委員

ふるさと納税の出入りはどうなっているか。

市

今は、入ってくる方が多くなっている。ふるさと納税は、入ってきたらそれが単純に収入になるわけではなく、半分くらいは経費となるが、それを差し引いても福知山市は外から入る方が多い。

委員

13 ページについて。ふくふく医療費支給事業を拡充されるが、中学生は拡充された後も自己負担が「1,500 円超の分は償還払」と「月 200 円」というのはどういうことか。

市

ここの絵が簡略化され過ぎている。「月 200 円」というのは「1 医療機関あたり月 200 円」である。複数の医療機関にかかると 1,500 円を超えるかもしれない。そのあたりは京都府の制度がまだ残っている。

委員

小学 6 年生までは医療機関は関係ないのか。

市

こちらも中学生と同じく 1 医療機関あたり 200 円である。

委員

個人的には教育・福祉保健の連携は特色ある政策だと思う。簡潔に記載してあるが、教育・福祉保健が連携しながら展開していくことは非常に難しいことで、この間に耕してきた土壌の中で積極

的に展開されていくことは非常にすばらしい。

**（２）令和４年度施策レビュー改善提案への対応状況について**

**【資料２について事務局より説明】**

委員

予算といい、今回の改善提案対応状況もきっちり対応していただいて素晴らしいと思う。実効性が伴う活動となり、成果が出ることを期待している。まとめたことで何かを成し遂げたわけではなく、スタートに立ったところである。これからいかに成果を出して目的とするような事業成果を出していくのかがポイントだと思う。施策担当課の PDCA サイクルを一連の長いベースと見る、市としてはそういうイメージになるだろうが、是非担当課ベースでは事業ごとに端的に実施した内容とチェック・アクションのサイクルを回して行動計画を立て、せっかく作ったが何の成果も出ないことのないようにコントロールしてほしい。

委員

最初の取組は手間取ったが、こういうとりまとめが出てくるとやってよかったと思う。担当課としてまとめていただき、非常にわかりやすい反面、前向きな見直し案になっており、やめること、戻ること等、そういうポイントが生じていない。指摘されたことを踏まえ、こういうふうに方向転換してこうなった、みたいなことがあると確認としても良い。結局、「こうやります」と書いてあるところが、本当にそれを踏まえた政策的な道筋になっているのか確認するという意味合いでも、やめること・改善したもの（削るもの・見直すもの）の具体的な記述があるとよりよい。改善をしていこうとされている方々の道筋を描いておいてもらうと、担当が変わった時でも、こういう道筋で改善型の施策ができていることがわかり、同じ失敗をしないと思う。簡潔に、そういうポイントを入れ込むことにより、より明確に・自覚的になるのではと思った。今回はきれいにまとまり過ぎているので、次回以降、そういったことを加味しながら、対応状況（その間の苦労・議論・そこに至った経緯等）が見えたほうがよい。

市

さきほど、どう取り組まれたかが大事だとご指摘いただいた。3 月に 1 次レビューを行い、当然であるが対応方針を踏まえて、令和 5 年度は具体的にどうするのか、部長を中心に確認し、ブレイクダウンさせる。上半期・下半期と期間を区切って経営戦略課も進捗管理は必要だと思っている。昨年、施策レビューを試行させていただき、今後、そういったところも報告させていただく中で、具体的に実効あるものに昇華させていきたいと思っている。

委員

【２　施策の対応状況】の（３）の見直し事項をしっかりとらえていただき、そこから（４）の次年度への課題の捉え方、改善点を検討いただいたことが伝わる資料で素晴らしいと感じた。

これは提案だが、この対応状況の中にあるとさらにいいと思ったのが、施策の成果目標・事業の成果目標を振り返るうえで、次年度はどこを目指すのか。例えば、施策の成果目標・事業の成果目

標を改めて見直す点があるのか、ないのか、最初に決めた計画通りに進むのか、難しそうなのか等を振り返り、追記いただくとさらに良かった。おそらく１次レビューの中で再度そこに向き合うことになると思うので、しっかり見ていただけると良いと思った。具体例として、【資料 1】予算案にもあった「福知山 KENPOS（アクティブシティ推進事業)」で、アプリに力をいれて普及していくというのが説明の中に随所に入っていたと思う。アプリをどのくらいの人数に使っていただきたいと思っているのか、それがあるからこそ各施策が実現できると考えているか、各部課の考え方・目標･目的意識をしっかりしていただくとさらに良い計画になり､良い1次レビューになると感じた。

委員

今回の資料は、改善提案・対応状況のみなので記載されていないかもしれないが、今後、2 次レビュー対象施策を選んでいく際に、前回の施策レビューでやった課題のある施策などを同じように 2 次レビューに乗せていくと思うので、課題がまだ残っていると感じていることがどこかでわかるようにしていただけたらと思う。

市

3 月に全ての施策について１次レビューのシートを作成したいと思っている。その後来年度当初の行革委員で１次レビューの結果も示したい。その中で、事務局で課題が残っていると思われるものをピックアップして報告させていただく。対応状況のシートについては、さきほどご指摘があったが、シートはこれが最終形だとは考えていない。例えば、これまでの事業のどういったところを振り返り、見直したのかという内容を加えたり、数値的なところを表現したり、内容についてもご意見をいただきながら、よりわかりやすいシートへと改善していきたいと思う。

委員

来年度、どういうかたちで施策レビューをより進化させていくのかということと重なるので、議事のほうに入らせていただく。令和 5 年度の施策レビューをどのように展開するのか、定義･目的･方法論等とりまとめていただいているので、本日はそれを議題とする。

２　議事

（１） 令和 5 年度施策レビューについて

**【資料 3･4 について財政課より説明】**

委員

先ほどの説明の中で、基本政策を最大 4 つまでを目安に 2 次レビューの対象施策を選定すると説明があった。実際の施策自体は 4 月の行革委員会の中でご提案いただいたものを審議するのかと思うが、来年度はこのあたりの施策に注力してきたい等の目安や考え方、すでに見えているものがあれば説明いただきたい。

市

今の時点で、必ずこの基本政策をというものはピックアップしているわけではないが、今年度は基本政策2と5を対象としたので、それ以外のところを中心にしつつ、2次レビューを行った施策でも課題が残っているものがあれば選定する可能性はある。

委員

資料4のスケジュールについて。市民評価者の方は施策と事業の違いがしっかり整理できないと思う。7月上旬から中旬に市民評価者への事前説明会があると思うが、丁寧に施策と事業の違いをわけた上で、施策全体の方向性を見ていかなければいけないことをしっかり認識していただく努力が必要だと思う。そうでないと、当日、検証委員とコーディネーターの説明の中で、施策から事業の細かい話までしていくので、話が混在することがよくある。その中で施策の方向性を捉えてもらわないといけないので、市民評価者の理解に注力いただけたらと思う。

市

令和5年度も今年度同様、市民評価者向けの説明会を開催しようと思うが、アンケートでいただいたコメントの内容で、例えば資料の一覧をつける等、そういった意見を大切にしつつ、時間が長くなり過ぎず、理解していただけるように、また、行政が当たり前と思っている言葉を使わないよう留意して説明を行っていきたいと考えている。

委員

資料3について。【2　施策レビューの目的】（2）の「市民と行政の協働のまちづくりやコミュニケーションの促進を図る」ことを一つの大きな目的として明確にしていただき、後の記載で「市民評価者」は、「まちづくり構想市民会議参加者及び、市民からの無作為抽出により20名程度の参加を募る」という流れになっている。いろんな行政の施策・事業を行うためには、住民の協力は必要不可欠で、住民自らがそういう意識を持ち、自治を推進していただかないと思うようにはいかないので重要なポイントだと思う。それを踏まえると、住民から無作為抽出するのは多様な意見を聞きたいという主旨だと思う。例えば、地域住民のキーマン・自治会長・市民組織のリーダー的な人等に参加していただき、それを皆に広げていただけるような方に参画していただければ、市民を一人一人ピックアップしていくよりは、行政の考え方が早く地域に広がっていくのではないかと思う。住民自治の基本的な考え方に基づいて、市民評価者をどのような方にしていただくのか、その方にどういうことを期待するのかも含めて、せっかくレビューの目的の中に大きく入っているので検討していただけたらと思う。

市

自治基本条例推進委員の取組とまちづくり構想を進めていくための施策レビューを両輪だと考えているが、この取組状況等を4月末に情報共有しながら、今後参加いただく市民の方をどのように参加をお願いしていくのがよいのか、引き続き工夫を凝らしながら改善していきたいと思う。

市

まちづくり構想策定の段階からできるだけ充て職を避けるようにし、主体的に動いている方々に入っていただこうということで委員を選任し、検討いただいた。推進母体についても、そのままで進めるという話もあったが、自治基本条例推進委員会が市と市民が協働する一番の母体として既に組織されているので、まちづくり構想の推進母体を別に構えずに、自治基本条例推進委員会で一緒に推進をはかっている。これも今年度から始めたところなので、まだまだ課題があるが、そういった思いで始めている。いただいた施策レビューの検証結果なども、自治基本条例推進委員会に返し、議論いただいている。そこで、市民の方と協働して具体的に何を進めるのか、市が事業としてやるのではなく、市民の方が率先して推進していただくことは何か、連携して進めることは何かを自治基本条例の精神に則って検討いただき、一緒になって頑張っていこうというストーリーを描いているところである。さきほどのご指摘を踏まえて言えば、当然、自治基本条例推進委員会で具体的に参画いただいている皆様に施策レビューの検証の場にもお出ましいただき、議論に参加いただくというのがいいのではと思う。そのあたりのやり方や人数は、今日、フォーマットを構成させていただいたと思っているので、来年度の具体的な中身を詰めていく中で、改めて示せればと思っている。決してそこを脇において、通りがよさそうな人を集めて検証すると考えているわけではないことを理解いただいていると思うが、庁内的にもいろんな意見があるところをチャレンジングに、無理やり方向づけて進めているところもある。その点も改めて説明する機会や委員会の方との意見交換の場等も来年度はできたらいいと思う。

委員

役所言葉を自覚的に使わないことが当たり前だということも含め、いかに考えている施策を市民の方に共有するかというところでは、通りのいい人たちだけでなく、多様な人々として無作為抽出というチャレンジも成功させていかなければならない。そこから得られる気づき・展開等を大事にしていきたいと思う。

委員

資料３について。【２　施策レビューの目的】（３）の「施策レビューでの検証過程を通じ、市職員の政策形成能力の向上を図る」という点は非常に重要だと思う。PDCA のサイクルを回しながら、新しい施策をどうデビューさせていくのかが、この能力向上につながるポイントだと思う。この流れの中で、内部での政策能力向上・新しいサイクルを織りまぜながら進めていただきたい。

委員

最初の報告からしっかり作りこんでいただいたと思っている。次期の施策レビューについても目的などが書かれているが、説明責任という言葉は大事である。当然、市民の方も「説明責任」という言葉には敏感だろうし、それに向けて市役所もどのように説明するのか、頭を悩ませるかと思う。市民の方に向けた説明と市役所内部の資料づくりとは視点が全然違ってくる。視点の切り替えが大事になると思うし、この経験が市職員の政策形成能力に繋がるという意味でも、市役所内部の視点と市民の視点、両方の視点からの資料を作らなければならないので大変な作業だと思う。ただ、資料を作ることが目的ではない。私も監査等を務める中で、審査を通すための資料となっているのを

よく見かける。そうではなく、目的は、納得させるためにどう説明できるかということであるのに、きれいな資料を作ることに頭がいっぱいになってしまうと、報告にもあった「きれいにまとまっているけれど、プロセスがわかりにくい」ということが起きかねない。能力を上げつつ、しっかり説明をするというのは大変なことだと思うが、施策レビューがうまくいくように、各所で協力してほしい。

市

喋る内容・資料、誰に何を伝えたいがために行っているのかを常に念頭におきたい。

市

気持ちが悪く思っていたことを相談したい。「レビュー」という冠がついているので、結果として「検証・評価」という言葉が先に走ってしまうが、定義・目的ではそういった言葉は使っていない。一方で【資料3】の2・3ページ目にいくと当たり前のように「検証・評価・検証委員・評価者」という言葉が出てきて、気持ちが悪く感じる。これは「評価」だというから構える職員がいて、こちら側はお茶を濁すような話でも、彼らからすると評価で×を受けたくないという防衛本能が働く。そういうところが主題ではないとして、施策レビューは議論する場・熟議の場・皆さんから知恵をいただく場だと説明をするが、どうしても様式論になると「検証・評価」という言葉が先に走ってしまう。これも行政用語ではないが、当たり前のように使ってしまっている。事務事業評価のように「評価」と位置づけているものはそれでいいと思うが、施策レビューのように新しい考え方で今年度から始めている中で、既に固定観念でできあがってしまっている。本当にこれでいいのかと思うので、率直に委員の方々の意見を伺いたい。

委員

確かに改善支援型のプログラムで、皆で考え知恵を絞ろう、価値を創造しようといった意味の内容が多い。目的としては改善支援なので、「検証委員」「市民評価者」という名前も含めて、2ページ以降にそういったネーミングが散見される。確かに「市民評価者」となると評価する人という構えから入ってしまう。ネーミングについていかがか。「サポーター」だとニュアンスが変わってくるし、「このままで」という意見でもよいと思う。

委員

素朴に、市民の方にはインタビューをする、声を聞くというニュアンスが入るといいかと思う。課題の認識が合っているかというところが、今年度の試行実施でも取り上げられたかと思うので、行政の考える課題と市民の方が感じている課題に大きなズレはないかという点がしっかり擦り合わせられる場、そのために来ていただくことがわかるような名前がつけばいいと思う。

委員

「レビュー」という言葉は、我々の業界ではよく使う。定義もきちんと理解しているわけではない。レビューする人のことを「レビュアー」と呼んでおり、例えば「市民レビュアー」等の使い方

でも良いかもしれない。検証委員も「レビュー委員」だとか、レビューをベースに考えるのならそれでもいいかと思う。

委員

「レビュアー」は評価者よりはいいかもしれない。

今回、こういうプラットフォームを示してもらったので問題意識として本委員会で共有しておきたい。ネーミングについての指摘はその通りであるということと、無作為抽出する上で、市民が誤解をしないよう、より目的を伝えていく努力はしなければいけないので、ネーミングの工夫をするという方向性だけ確認をさせていただき、事務局に引き取ってもらう形でもよいか。（→　はい）

今回は、このプラットフォームについて本日ご了承をいただいたということで、本格実施に向けて準備を進めていただきたいと思う。また、取組の進捗も含めて、この委員会で適宜報告いただくということで進めさせていただきたい。

そのほかはいかがか。（→　なし）

それでは本日の議事は以上とする。

以上